

支援対象・ニーズ

インプット

アクティビティ（活動）

＜一次相談等で顕在化（捕捉）しづらい課題＞

【コミュニケーション・人間関係】
 ★周りの人とコミュニケーションがとれない
 ★対人関係と人との関わりに不安がある
 ・自分の考えや意見を上手く伝えられずストレス
 ★職場で疎外感を感じて退職→就職活動に踏み出せない（現場の理解が得られないことが多い、障害特性を見て人を見ない）
 ・人の話を聞けない ・学校でも、人と活動する時に折り合いがつけられない。拘りがつよい。力が無いわけではない。
 ・他者との交流が苦手な人はそれが職場で負担に。誰かひとりで支えになる人がいれば違ってくるかも

【職場環境】
 ★上司と合わない ・相談に取り合ってくれない
 ・仕事の進め方を教えてもらえない
 ・期待が大きくなり負担を感じる（企業側からのプレッシャー）
 ・自由な時間、休みが取れない ・業務過多／ブラック企業
 ・自分の適性に合っていない ・仕事内容がづらい
 ・勤務地が合わない ・通える範囲には希望する仕事がない
 ・仕事はあっても希望する仕事ではない

【自信がない・不安感】
 ・前職でのトラブル／ハラスメント ・退職などがトラウマ
 ・自信がなく不安（初めての場所や人に緊張する） ・仕事で怒られるのが不安
 ・一人での体験が不安、ハードルが高い
 ★仕事が覚えられない（適正ではないから？）
 ・どんな仕事に向いているか不安→気軽に知ることができることで不安が和らぐ ・自身もためずに仕事をやめてしまい、なかなか新しく前に踏み出せない

【孤立】
 ★家族以外の人間関係のつながりがない
 ・家族含め、相談できる人がいない、話を聞いてもらえない
 ★相談窓口がわからない
 ・自分をさらけ出すことができない。過去のトラウマを話せない。家族にも話せない。いかに引き出すかが大事。
 ・生活リズムや体型などにより家から出づらい

【モチベーション】
 ・（長野には）希望する仕事がない ★目標、目的がない
 ・生きるための目的が無くなってしまった
 ・収入面を支えていた同居人がいなくなり、仕事を探すも、何のためにどんな仕事をするか本人の中でまとまっておらず、支援が困難 ・仕事にやりがいを感じない

【個人の性質】
 ★緊張しやすい・常に不安・ネガティブ思考
 ・他人の視線や評価、細かいことが気になりすぎてしまう
 ・悩みに対するストレスの発散法を知らない
 ★集中してしまうと周りが見えなくなる／客観視できない
 ・自己中心型／協調性がない ・自己主張・正義感が強い
 ・すべて周りのせいにしてしまう（プライドが高い）
 ・同時に二つのことをするのが苦手
 ・周りに負担をかけるのを嫌がってしまう
 ・助け合いが不安になってしまう ★自己肯定感が低い

【適性・スキルのミスマッチ】
 ★仕事の内容が自分の性格に合っていない／適性が分らない
 ・実際に働いてみたら想像と違った
 ★卒業後なんとなく就職したが退職し、その後どう働けばよいかわからない ・キャリア・資格がない
 ・就労のための力、条件が整っていない
 ・自分自身を理解していない

＜一次相談等で顕在化（捕捉）しやすい課題＞

【家族のケア】
 ・核家族化→子どもを預けられない、手が離せない
 ・ヤングケアラー問題
 ・家族の介護等しなければならない
 →休みを多く取り職場から良く思われない

【病気・健康不安】
 ・怪我／病気→本人が（再）就職を希望していても治療との兼ね合いで困難 ・何等かの疾病を抱えている方が医療に繋がらないまま就職活動を続けている ・本人が疾病があることを否定
 ・体調・気持ちに波がある ・朝起きられない
 ★生活に影響が出るほどのギャンブルや飲酒

【障害・高齢】
 ★障害者・高齢を受け入れる会社が少ない。生かされる能力を正当に判断していないのでは。
 ・大学中退、自分は発達障害を持っているのではと感じる方（教育から就職への挫折感）
 ・本人は障害を自覚しているが親が認めない
 ・就労訓練までできたとしても具体的な就職に繋がらない ・障害者であることを隠したい
 ・障害と疾病を複合的に抱えている方の就職に大きな壁がある ・年齢で就職を断られてしまう

【社会的弱者】
 ・日本語を話せない外国籍の人・移住者

【前科・トラブル】
 ・過去の過ち（犯罪）などで地域の中で働けない、働きたくない ・トラブル進行中 ・犯罪を犯した人が仕事に就こうとしたときに身分を隠すと就けるが明らかにすると断られる。犯罪の種類によっては免許の資格が没収される。再取得までの支障になっている。罪は罪だが、立ち直れる社会に（保護司の立場から）

【困窮】
 ・働くために必要なお金がない（交通費、働き始めるまでの生活費）
 ・賃金が安い（契約社員・パート社員）
 ・Wワーク、トリプルワークをする人
 ・コロナ禍で解雇・労働時間・残業の減少
 ・コロナやウッドショックなどで仕事が不安定、仕事量が減ってしまった大工
 ・多重債務／収入があっても返済で生活がままならない
 ★金銭管理ができず稼いだお金をすべて使ってしまう ・生活保護受給者
 ・収入を得ようとして、ネットで簡単に儲かるという詐欺にひっかかってしまう

【交通手段】
 ★車の免許、交通手段がない
 →就労可能な範囲が狭まってしまう

【家庭環境】
 ★親から働けと言われて焦っている（親の理解に悩んでいる人が多い）
 ・離婚などで上手く仕事の時間が取れない
 ・家族の中の関係性に悩んでいる

【長期離職】
 ★離職期間が長い／引きこもり・ニート
 ・ブランクについてどのように伝えたらよいか

相談支援窓口A

相談支援窓口B

相談支援窓口C

相談支援D

相談支援E

関係部署、機関・団体、企業等の活動や事業の連携や重層化

【相談者の状況にあった適切な相談支援（体制）】

★各地域に気軽になんでも（仕事・生活）相談できる窓口、仕事を探せる場所がたくさんある ・東御市独自の就労支援窓口（HW） ・就労に向けたアドバイザー制度の導入（マンツーマン） ・6.5歳以上の方を対象とした雇用就労調整の機関 ・自分の地域以外を知る（県外、海外） ・働く人と働く場を面と面で繋ぐ
 ・長期休職者の相談窓口 ・コロナ禍での緊急就労事業（県社協×東御市） ・就職相談会（出張・訪問相談も）
 ★能力を発掘し活躍の場につなげてあげる専門事業所 ★就労後の長期的なサポート、定着支援） ・ライン化された就労支援で長期的なサポート ・多方面からのアプローチ（相談、体験、などを個別の項目として捉えるのではなく、体験の中で相談があったり、関連付けていく） ・支援者側の人が相談できる場所（相談の仲介場所、窓口としての役割を果たす場）

【就労準備・多様な働き方のメニューを増やす支援】

★企業側が受け入れやすい仕組みづくり ・受入側の企業でのプライバシー配慮 ・育休・介護休暇等、休暇制度の導入 ・各企業が「こんな人たちを採用します」一覧表をHWに掲出 ・お昼の雑談時間をさけたシフトの工夫・配慮 ★緩やかに働ける／自分のペースを認めてくれる場所→短時間・フレックス・短期 ★オンラインワーク・自宅でできる仕事 ・子連れでも働ける勤務時間・時間帯→「母親自身」の将来のためにも女性の働き方、キャリアを早くに考えるべき ★仕事内容の切り出し（得意な仕事を限定的にやれると良い） ★年齢制限の完全撤廃 ・障害福祉サービス事業所を増やす→ユニバーサル就労の促進 ・1つの仕事をみんなでシェアする／気軽に仕事の引継ぎができる ・法定雇用率を会社もメリットがある形で、週15時間二人採用ペアで1カウント（現在は週30時間）補充し合う関係性、チームで仕事などに対して法定雇用率も検討（農福連携）（土と向き合うことがストレス減） ・とれた野菜や果物を法人と一緒に販売 ・農業の窓口法人を作る
 ★農福連携等コーディネーター ・マッチングしてくれる人（農家へつなげていく人）がほしい ・こころみ学園みたいな ・農福連携のスーパーバイズ機能を全県的な機関が行ってくれると良い ・農業と第6次産業を結び付け、農閑期にとらわれず一年間働き続けられる仕事づくり。中間的支援機能の創出 ・人手が集まらない企業・自営業の支え手に ・引きこもりの方の参加のきっかけをつくる ・空き家・空地利用

【就労意欲を向上させる（キャリアの模索・形成を見通す）支援】

〈見学・体験プログラム〉 ★地元企業等で就労体験・実習・見学できる選択肢を増やす（職種・障害の有無・季節）
 ・オンライン見学の開催／配信 ★受け入れ事業所による講習会 ・商工会セミナー ★実際に仕事をやって自分の適性や職場の雰囲気を知る機会 ・就職面接への積極的参加 ・まずは二万円以内、といったトライアル
 ★プチバイト→期間を伸ばし、就労につながることも ★社会との繋がりを段階的に体験していくようなシステムづくり ・体験をしてまいさぼ等がその方の様子を見て、適性を見つけて生かせる事業所につなぐ
 〈仲間との交流〉 ★障害者自身の学習会の開催、参加 ★子ども誰でも居場所 くるme→将来の仕事の基本スキルに ・先輩などの話を聞ける場所・機会 ★同じ悩みを持つ方の集まり、カウンセリング→自分を他者に表現するという練習が必要 ★やりたいことを共有する場、やりたいことがなければ作る場 ・お年寄りや外国人住民との交流の場 教えたり教えられたり ・音楽活動 ・安心して参加できる場所 ・地域イベントへの積極的な参加

【スキルの向上や課題解決等に対する支援】

〈訓練プログラム〉 ★就労に関する再学習・訓練の場 ★自分の適性を知る検査／職業評価（支援アセスメントに活用） ★半年単位での有給の就労訓練（報酬があると当事者のモチベーションに） ・通所できる就労訓練 ・自分に合った資格取得支援 ・生保から脱却し働くことを希望している人に対して資格取得希望者への補助金制度・マナー、みだしなみ、言葉遣い講座 ・自分のよさをアピールする
 ・外国人が言葉の理解ができる、日本語学習の機会（話せるだけではなく、読み書きも）
 〈関連制度・サービスの利用〉 ・医療との連携、「保健師との連携」など項目として追加 ・精神科／セラピー受診（自分の苦手の原因を探り、どうアプローチすべきか考える） ・苦しさを抱えている人をどう理解するか
 ・生活技術を身に付ける場 ・一人暮らし体験（時間やお金の使い方など、生きていくために必要なことをサポート） ・生き方について総合的にプランニングする支援 ・消費者生活センター
 ・シルバー人材センター登録者による介護予防訪問サービス ★住宅支援（社員価格で安く入居できる）
 ・社会制度の見直し、新設、教育の見直し（知識より人格形成を重視） ・現場の方に手当を付ける、意見交換の場（経営者が率先して障害の方を受け入れるが、現場の負担に気が回らない）

【安心して働き続けられる支援】

〈企業内へ支援員の配置〉 ★職場と本人の間に入って定着支援をする人材 ・就労先にサポーターがいてほしい（知り合いがいることの心強さ、安心さ） ・企業との連携パイプ役のような人材（東御市は実践している）
 ★受け入れ企業に予めコミュニケーションが苦手だと伝え、社員にも理解してもらい、苦しいことをわかってもらい（支援員の働き方） ・オンラインで就労支援に参加 ・人材確保
 ・社会的孤立の方の支援。社会参加できたとしても何買った時に相談したり支援してくれる人が必要。「伴走者」のようなサポート
 〈企業×まいさぼ〉 ★まいさぼ・企業・団体のコミュニケーションの場、情報交換やフォロー（互いに知り合う、地域の課題・困りごとを共有）→定着（理解をし合わない、企業側が、使えない人ばかり来ると思ってしまう）（よい妥協点を見つけられるような懇談の場）（農園側とまいさぼ側の考え方の統一）
 ・障害福祉サービス・障害者雇用のことを企業が知る機会（説明／見学会） ・会社の採用担当者同士の情報共有システム（辞めそうな人がいる等・人材を把握し、受け入れイメージを持ってもらう）
 〈家族への働きかけ〉 ★家族が就労支援機関の対応の仕方を学ぶ場（「早く働きなさい」「何してるのか」と言われたりし、自信を無くす）

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

アクティビティ（活動）



直接アウトカム等



中間～最終アウトカム

【相談者の状況にあった適切な相談支援（体制）】

★各地域に気軽になんでも（仕事・生活）相談できる窓口、仕事を探せる場所がたくさんある ・東御市独自の就労支援窓口（HW） ・就労に向けたアドバイザー制度の導入（マンツーマン） ・65歳以上の方を対象とした雇用就労調整の機関 ・自分の地域以外を知る（県外、海外） ・働く人と働く場を面と面で繋ぐ
 ・長期休職者の相談窓口 ・コロナ禍での緊急就労事業（県社協×東御市） ・就職相談会（出張・訪問相談も）
 ★能力を発掘し活躍の場につなげてあげる専門事業所 ★就労後の長期的なサポート、定着支援） ・ライン化された就労支援で長期的なサポート ・多方面からのアプローチ（相談、体験、などを個別の項目として捉えるのではなく、体験の中で相談があったり、関連付けていく） ・支援者側の人が相談できる場所（相談の仲介場所、窓口としての役割を果たす場）

【就労準備・多様な働き方のメニューを増やす支援】

★企業側が受け入れやすい仕組みづくり ・受入側の企業でのプライバシー配慮 ・育休・介護休暇等、休暇制度の導入 ・各企業が「こんな人たちを採用してます」一覧表をHWに掲出 ・お昼の雑談時間をさけたシフトの工夫・配慮 ★緩やかに働ける／自分のペースを認めてくれる場所→短時間・フレックス・短期 ★オンラインワーク・自宅のできる仕事 ・子連れでも働ける勤務時間・時間帯→「母親自身」の将来のためにも女性の働き方、キャリアを早くに考えるべき ★仕事内容の切り出し（得意な仕事を限定的にやれると良い） ★年齢制限の完全撤廃 ・障害福祉サービス事業所を増やす→ユニバーサル就労の促進 ・1つの仕事をみんなでシェアする／気軽に仕事の引継ぎができる ・法定雇用率を会社もリットがある形で、週15時間二人採用ペアで1カウント（現在は週30時間）補完し合う関係性、チームで仕事などに対して法定雇用率も検討（農福連携）（土と向き合うことがストレス減） ・とれた野菜や果物を法人と一緒に販売 ・農業の窓口法人を作る
 ★農福連携等コーディネーター ・マッチングしてくれる人（農家へつなげていく人）がほしい ・こころみ学園みたいな ・農福連携のスーパーバイズ機能を全県的な機関が行ってくれと良い ・農業と第6次産業を結び付け、農閑期にとらわれず年間働き続けられる仕事づくり。中間的支援機能の創出 ・人手が集まらない企業・自営業の支え手に ・引きこもりの方の参加のきっかけをつくる ・空き家・空地利用

【就労意欲を向上させる（キャリアの模索・形成を見通す）支援】

〈見学・体験プログラム〉 ★地元企業等で就労体験・実習・見学できる選択肢を増やす（職種・障害の有無・季節）
 ・オンライン見学の開催／配信 ★受け入れ事業所による講習会 ・商工会セミナー ★実際に仕事をやって自分の適性や職場の雰囲気を知る機会 ・就職面接への積極的参加 ・まずは二万円以内、といったトライアル
 ★プチバイト→期間を伸ばし、就労につながることも ★社会との繋がりを段階的に体験していくようなシステムづくり ・体験をしてまいさば等がその方の様子を見て、適性を見つけて生かせる事業所につなぐ
 〈仲間との交流〉 ★障害者自身の学習会の開催、参加 ★子ども誰でも居場所 くるme→将来の仕事の基本スキルに ・先輩などの話を聞ける場所・機会 ★同じ悩みを持つ方の集まり、カウンセリング→自分を他者に表現するという練習が必要 ★やりたいことを共有する場、やりたいことがなければ作る場 ・お年寄りや外国人住民との交流の場 教えたり教えられたり ・音楽活動 ・安心して参加できる場所 ・地域イベントへの積極的な参加

【スキルの向上や課題解決等に対する支援】

〈訓練プログラム〉 ★就労に関する再学習・訓練の場 ★自分の適性を知る検査／職業評価（支援アセスメントに活用） ★半年単位での有給の就労訓練（報酬があると当事者のモチベーションに） ・通所できる就労訓練 ・自分に合った資格取得支援 ・生保から脱却し働くことを希望している人に対して資格取得希望者への補助金制度・マナー、みだしなみ、言葉遣い講座 ・自分のよさをアピールする
 ・外国人が言葉の理解ができる、日本語学習の機会（話せるだけではなく、読み書きも）
 〈関連制度・サービスの利用〉 ・医療との連携、「保健師との連携」など項目として追加 ・精神科／セラピー受診（自分の苦手の原因を探り、どうアプローチすべきか考える） ・苦しさを持っている人をどう理解するか
 ・生活技術を身に付ける場 ・一人暮らし体験（時間やお金の使い方など、生きていくために必要なことをサポート） ・生き方について総合的にプランニングする支援 ・消費者生活センター
 ・シルバー人材センター登録者による介護予防訪問サービス ★住宅支援（社員価格で安く入居できる）
 ・社会制度の見直し、新設、教育の見直し（知識より人格形成を重視） ・現場の方に手当を付ける、意見交換の場（経営者が率先して障害の方を受け入れるが、現場の負担に気が回らない）

【安心して働き続けられる支援】

〈企業内へ支援員の配置〉 ★職場と本人の間に入って定着支援をする人材 ・就労先にサポーターがいてほしい（知り合いがいることの心強さ、安心さ） ・企業との連携パイプ役のような人材（東御市は実践している）
 ★受け入れ企業に予めコミュニケーションが苦手だと伝え、社員にも理解してもらおう、苦しいことをわかってもらおう（支援員の働き方） ・オンラインで就労支援に参加 ・人材確保
 ・社会的孤立の方の支援。社会参加できたとしても何買った時に相談したり支援してくれる人が必要。「伴走者」のようなサポート
 〈企業×まいさば〉 ★まいさば・企業・団体のコミュニケーションの場、情報交換やフォロー（互いに知り合う、地域の課題・困りごとを共有）→定着（理解をし合わないと、企業側が、使えない人ばかり来ると思ってしまう）（よい妥協点を見つけられるような懇談の場）（農園側とまいさば側の考え方の統一）
 ・障害福祉サービス・障害者雇用のことを企業が知る機会（説明／見学会） ・会社の採用担当者同士の情報共有システム（辞めそうな人がいる等・人材を把握し、受け入れイメージを持ってもらう）
 〈家族への働きかけ〉 ★家族が就労支援機関の対応の仕方を学ぶ場（「早く働きなさい」「何してるのか」と言われたりし、自信を無くす）

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

□必要なインプット？

【相談者の状況にあった適切な相談支援（体制）のアウトカム】

・人に寄り添った支援
 ・手厚い就労支援
 ・マンツーマンでの支援による安心できる人間関係の構築

【就労準備・多様な働き方のメニューを増やす支援のアウトカム】

・仕事のマッチング
 ・やりたい職業を自分自身で選択できるように
 ・定着をして収入を安定して得られるようになる
 ・生き生きと役割を得て、仕事を介して社会に参加

【就労意欲を向上させる（キャリアの模索・形成を見通す）支援のアウトカム】

・一人ひとりにあった仕事が見つかる
 ・社会の中で生きる
 ・何等かの活動ができる
 ・自分らしい生き方を見つけていける
 ・人と関わることが楽しいと感じられ、仕事につながる

【スキルの向上や課題解決等に対する支援のアウトカム】

・仕事に就いて自己肯定感を得る

【安心して働き続けられる支援アウトカム】

・社会の一員として、失敗しても平気な環境で仕事を続けていける
 ・定年まで元気に働ける
 ・本人の変化、幸福

＜中間アウトカム＞

・職場の理解、市民の理解が広がる
 ・トップから理解を変える
 ・人材の確保
 ・関係機関との更なる連携の強化
 ・行動が活発になることで地域活性化
 ・農業の荒廃地が減る
 ・JA直売所など若者が増える
 ・移住者が増える
 ・東御市の人口が増える
 ・ほどよく田舎
 ・地域の問題は地域で解決する

＜最終アウトカム＞

・住みやすく働きやすい東御
 ・元気に働ける東御市
 ・ひとにやさしい社会
 ・みんなが理解し合う社会
 ・一人ひとりが輝ける地域
 ・困ったこと苦しいことがあった時、気軽に相談できる社会、分かち合える社会
 ・町全体が元気のある町になる